

## 佐賀市の文化・芸術の未来をみんなで考える会

開催日	令和7年9月28日（日）	
開催時間	10時30分～12時	
開催場所	佐賀市立図書館2階大集会室	
出席者	伝統工芸2名、音楽3名、画家1名、障がい者芸術3名	
	委員	3名
	事務局	4名
意見交換	・意見交換内容 1) 普段の活動について（悩みや課題、改善策など） 2) 団体同士・個人同士での情報交換や意見交換の必要性について 3) 情報発信方法について 4) 文化・芸術のプラットフォーム化について	

## 主な意見

## 1) 普段の活動について

- 制作活動の中で資金面は大きな課題であるが、活動拠点の少なさも原因となっていると思う。
- アーティストの活動の継続性は大きな課題。SNS出現で気軽に発信できるようになったが、炎上を恐れて自由な発信をできない人もいる。自由な発信・表現という面からみると、負の感情を表現する場はどんどん減ってきていると感じる。
- 練習場所が不足している、他市町のホール等も探して練習場所を確保している（音楽）。パート練習には公民館を利用しているが、騒音問題等により使用できる公民館が減少している。
- 文化会館等の利用者の声を聴く場も設けてほしい。
- これまで培ってきた専門知識を広げたいが、需要があるのか分からない。

## 2) 団体同士・個人同士での情報交換や意見交換の必要性について

- 障がい者芸術の推進をつないでいき、障がいの有無にかかわらず活動を広げていきたい。
- 佐賀は都会よりもつながりが強いと思っているので、企業や個人がコラボして新しいストーリーを発信していきたい。
- 裾野を広げるために、行政や活動をされている方と連携をとっていきたい。
- 活動するにあたって、佐賀は都会に比べて話を聞いてもらえると感じる。
- 佐賀大学も芸術分野に力を入れているので連携しないともったいない。

### 3) 情報発信方法について

- 佐賀市には都市部にはないつながりなど強みがあると思っているのでそれを活かしたい。
- これからは情報発信が重要なので広報に力を入れたい。
- 普段の活動に忙しく、広報活動（特に SNS での発信）まで手が回らない。市が動画などを制作し、事業者も PR 時に使えるようにしてもらえると助かる。  
（例：1 分程度の動画等）
- 広め方に悩みを抱えており、ネット上の広報が届かない人もいる。

### 4) 文化・芸術のプラットフォーム化について

- 福岡にはアーティストカフェ福岡というアーティストを支援する拠点があるので、佐賀にもそのようなコミュニティがあると活動をはじめたり、継続できたりするのではないか。
- 空き家等も活用して、拠点となる場をつくってほしい。
- 感情を自由に表現できる場が佐賀にできれば面白いのではないか。
- 気軽に文化芸術に触れられる機会や環境が身近にあることが大切。
- 今後、人口の減少に伴い、文化の継承が難しくなるのではないか。

### <その他文化芸術に関する意見>

- 県外の自治体ではまちづくりにアートを使ってもらうことが多い。アートを展示するだけでなく、メッセージを伝えるためにアートを使う自治体や企業も多い。佐賀市でもまちづくりなど大きな計画や方針を決めるときにアートの視点も取り入れてほしい。
- 多様性やダイバーシティなどのまちをよくする活動にアートを使ってほしい。
- 誰でもアートに触れたり表現できるまちにしたい。
- これまでは佐賀からアーティストが流出することが多かったが、今後は佐賀からアートを発信していけるようにしたい。
- 特に若い人はモノが作られる過程やストーリーに魅力を感じてくれている。
- 若い人は伝統工芸のストーリー（背景）に興味があると感じている。
- クリエイティブな活動を発信するのは難しいと感じているが、作品単体の表面的な価値だけではなく、作品のバックストーリーを PR して行けたらと考えている。
- 若い人は佐賀に来るのに抵抗ない。何もないわけではないというところをギャップとして楽しんでくれていると感じている。
- お祭りは自分たちが楽しむために行っている。観光客が来てさらににぎわっていく良い循環ができればさらに良いかもしれないが、観光地になればいいというものでもないと思う。
- 文化・芸術に関わる人々が住みやすいまちづくりを目指すことが大切だと思う。